



長野市男女共同参画情報紙「With You」は、男女共同参画社会づくりに向け、市民編集委員が様々な視点から情報を発信しています。今回は、編集委員がそれぞれの職業キャリアから考える『働く場での男女の連携、パートナーシップについて』をテーマに語り合いました。

「With You」

編集委員で座談会！

テーマ/『働く場での男女の連携、パートナーシップについて』
編集委員/Nさん(40代女性。会社員を経て資格を取得し独立)

Mさん(50代女性。会社員。現在は管理職)

Wさん(71歳男性。新聞社を定年退職。現在は地区の役員)

まず、テーマについて
お一人ずつ…

Nさん：私は、高校・大学と男子が多い中で育ち、最初の職場も男性が中心でした。女性が希少な業界でお客様に珍しがられました。しかしながら実力がすぐには伴いませんでした。男女の連携：あまり男女って意識して考えたことがないかもしれせん。

Wさん：俺は、子どもが多い時代に育ったから「止まるな、走れ！」と言われ、自分でも負けたくないと思ってきたな。働いていたときは、手を振って休めたのは新婚旅行くらいだった。休みを犠牲にしても、納得する仕事をしたかったからワーク・ライフ・バランスどころか「ワーク、ワーク、ワーク」だった。女性が極端に少ない職場だったから、女性は競争相手にならないというか、若いころはほとんど意識してなかったな。

Mさん：私の職場は10人くらいのチームで、正直男女ってあまり意識したことなくて。家庭や子どもをもつという生活の変化や、職歴の中での変化を、女性だから特別ではなくて、変化を認めつつ男女を意識せずに一緒に働ける環境をつくってもらいながらきたように思います。今度、自分がそのような環境をつくらないといけないと思っています。

「あまり男女って意識して考えたことがない」Nさんが、編集委員を志望するに至った心境の変化とは？

Nさん：「人生再設計セミナーの男性参加者から『女性だから、女性のことをやればいいのになぜやらないの?』と言われたことがきっかけです。仕事の成果として良いモノができるかが全てで「どうして、女性だから女性のことなの?」と心の中で反発しました。その後、「自分の考え方が偏っ

ているのかもしれない」という考え方に変わり、「With You」編集委員に応募しました。さまざまな方の考え方にふれることができて感謝しています。



Wさん：俺は、女性が男性にはない視点を持っているということを経験しているから。

管理職だったとき、ある女性の部下をスゴイと思ったことがあった。あがってくる原稿が男じゃ考えられない、思いつかない内容なんだ。彼女が出してくるような障がいのある子どものこととか、当時の男性記者は思いつかないよ。詳しく聞いたら、社会的に大変な問題がいっぱい

Nさん：Wさん自身はどうですか？

Wさん：俺は、女性が男性にはない視点を持っているということを経験しているから。管理職だったとき、ある女性の部下をスゴイと思ったことがあった。あがってくる原稿が男じゃ考えられない、思いつかない内容なんだ。彼女が出してくるような障がいのある子どものこととか、当時の男性記者は思いつかないよ。詳しく聞いたら、社会的に大変な問題がいっぱい

あるんだよ。それで、彼女が取材に集中できるように細かい仕事を俺が全部引き受けて「自由にやってこい」って送り出した。

仕事をやる上で問題意識って、男性にとってというか、男性だけに必要なものだと思っていただけ、女性にとっても必要なものなんだって、そのとき初めて思ったよ。恥ずかしながらね。初めて女性に対して嫉妬したね。悔しいな、かなわないなって。男性に対してはライバル意識しかなかったけど、女性に対しては嫉妬した。嫉妬心と尊敬心みたいなものだね。

Mさん、女性の管理職として男性の部下をどう見ていますか？

Mさん：私がというより、相手はどう見ているかなって考えることはありますね。女性の上司って見ているのかな？どういふふうに入れてもらっているのかな？って。でも、だからといって特別視されている感覚はあまりないですね。『女性の上司だから話しやすい』って相談してくれる人もいました。

男性の部下で『育児に力を入れたいので平日の時間外勤務はなかなかできませんが、休日は妻が家にいられるので、平日の分をきちんやりやります。いつまで

にどんな仕事をすればいいのかわせてください』と相談されたことがあります。私が、女性の上司というのは事実で、私としてできることをやってみようと思っていました。

Wさん：そういうことを言えるというのは、話せる職場だね。こんなこと言ったら、怒られるんじゃないか、迷惑かけるんじゃないかって考えちゃうよ。

Nさん：『迷惑かけるのでは？』は大きいです。仲間に迷惑かけるのではないかと、仕事が滞っちゃうのではないかって。

Mさん：そのときは彼が『周囲に迷惑をかけたくない』と言っていました。『必ず他で挽回するからスケジュールはなるべく早目に教えてください』って。

職場の男女に必要なのは互いのリスベクト(尊敬と敬意)

Nさん：Wさんの『自由にやってこい』と送り出す理解や、Mさんの話しやすさかつ共に考える姿勢が、個々の才能を見出し、変化を認めつつ一緒に働ける環境へ背中を押してくれるのだと思います。どれだけ有り難く心強いことか…。

Wさん：職場でいえば、男性と女性が協力し合う、手を出し合うことはいい仕事に結びつくっ

てことかな。

Nさん：尊敬：その人自身への敬意がもたなくて。

Mさん：性差だけじゃなくて、年齢差でも感じます。「なるほどな」って思うことがあります。

Wさん：排除するんじゃないかって、受け止める。「これは、おもしろいな」って違いを認め合う。才能って、自分じゃ分からないものだよ。相手に受け止めてもらうことで初めて動き出すっていうことがあるよ。

Nさん：おもしろいな、この人すごいな、という…。

Wさん：まず、人と話すことで自分自身に浮かび上がってくる「あ、自分はこうなんだ」って「個」に気づくんじゃないかな。

Nさん：男女というより、個を認めるってことじゃないですか。性差の前に一人ひとりを見ていく。個の才能を認めて、引き上げて、つないでいく。

一同：拍手!!

Wさん：働く中でもそうだし、地域でもそうだな。認めることによって個の力がでて、つながっていくんじゃないかな。

今までは、仕事で男女間の連携やつながりって少なかったよ。でも男女が連携すれば今よりもっと力を発揮できる。一たす一が三にも四にもなる社会になるんじゃないかな。

座談会後記

Nさん：皆さんの考え方にふれる機会をありがとうございました。引き上げて、つないでいく」を実践したいと思いました。

Wさん：話し合うことがいかに大事か再認識したね。一人で考えている以上のことを知ることができたよ。

Mさん：いろんな発想を聞けたし、伝えることで、頭の中を整理できたように思います。ありがとうございました。

お問い合わせ

長野市男女共同参画センター

TEL / 026-237-8303

〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1

Eメール / danjo-c@city.nagano.lg.jp

https://www.city.nagano.nagano.jp



平成30年度 長野市男女共同参画情報紙「With You」の編集委員を募集します。詳しくは、「広報ながの3月号」(3月1日発行)をご覧ください。長野市男女共同参画センターにお問い合わせ下さい。

『講座体験記』

昨年12月に開催された、男女共同参画団体主催のセミナーに参加してきました。

講座名 / 「働き続けるためのレジリエンス向上セミナー～しなやかで折れない心の育て方～」

主催 / NACC・ながのアサーティブコミュニケーションクラブ

講師 / 柏原 吉野さん(産業カウンセラー / 長野県男女共同参画センター 委嘱カウンセラー)



レジリエンスってなんだろう?と参加するまではよくわからなかった私ですが、「心が回復していく考え方」だと実感しました。比較的人間関係の中では、「自分」の気持ちを棚に上げ、ついつい相手の想いばかり気にしてしまい疲弊していました。今日からは、自分を受け入れ肯定した上で、しっかり相手も尊重するレジリエンス思考を心がけたいと思います。心が軽く、元気になる講座でした。

講師の柏原さん

※男女共同参画団体を募集しています。詳しくは、長野市男女共同参画センターへ